

第297号（2025年4月号） / 2025年4月1日発行

2025年度予算、過去最大の予算規模 市民要望実現の一方、低所得者支援など不十分

来年度予算案などが話し合われた狛江市議会の第一回定例会が3月26日に終わりました。日本共産党狛江市議団は予算の編成替えの提案を行い、日本共産党狛江市議団4名のほか無会派1名の賛成がありましたが賛成少数で否決されました。狛江市提出の原案の反対は日本共産党狛江市議団の4名のみで賛成多数で可決されました。

来年度予算は過去最大の予算規模となり、私たちが求めてきた住宅防犯緊急対策事業の再編拡充、六郷や猪方排水樋管への排水ポンプの設置、（仮称）子ども条例制定、ヤングケアラー実態調査、小・中・高校生の医療費助成の所得制限撤廃と窓口負担完全無償化、PFASの独自調査などは評価できます。

財政も、10年間の決算剰余金（黒字）の平均は約15億円。基金積立金（貯金）の平均は、11億円弱。基金残高総額（貯金）は、60億8,497万7千円の増加となり、一定の余裕が出ています。

一方で物価の高騰は止まらず、市民生活は厳しさを増し特に低所得者層ほど生活が大変になっているにもかかわらず、低所得者層への支援があまりに少ないものでした。こうした中で、特別職や議員の報酬を上げることは行うべきではなく、さらに、高校生への奨学金の募集を停止することはあってはならないことです。

日本共産党狛江市議団が提出した編成替えを求める動議は、ひとり親家庭への家賃補助や介護保険利用料の軽減制度、生活保護受給者に夏季見舞金の支給、住民税均等割りのみ課税世帯への3万円を給付、障がい者への外出支援金支給額の引き上げの対象拡大、中学校の修学旅行費の無償化など、物価高で厳しい生活を送っている低所得者や高齢者への支援を盛り込みました。

また、災害対策でもトイレカーの購入。感震ブレーカーや家具転倒防止器具の購入・設置費用の助成が入っており、PFASの独自調査の拡充も命と健康を守るうえで重要と考え盛り込んでいます。さらに、不登校や私立国立の小中学校に通う児童生徒へ給食費相当額を支給するなど、市民要望も実現するものでした。

残念ながら否決されてしまいましたが、皆さんと力を合わせて今後の議会の中で実現に向けて力を尽くしたいと思います。（日本共産党狛江市議団）

11月に市民センターリニューアルオープン

来年度予算では市民センターリニューアルオープンの事業費13億8,396万円が付きました。うち市民センターの大規模改修工事は13億1,232万円ですが、24年度に3億円余りついたので、合わせて16億円超となります。また11月からの中央公民館施設使用料は、面積辺りで決めるのは変わりませんが、ホール、講座室などが100円～200円値上げになります。

新しくティーンズルームなどこれまでにない施設も増えるのですが、使い勝手や運用について利用者の意見を言う機会がまだありません。また、利用区分が4区分になったため、これまで通りの活動をするには活動場所を変えねばならない状況が生まれており、16時から19時の枠の利用率は低く、決して活動枠が増えたとは言えません。

中央公民館のオープンに向けて利用枠の見直しや運用について、利用者との話し合いの場が早急に持たれるべきです。（周東）

都議選（6/13 公示、6/22 投開票）・参議院選（7 月）

裏金問題や物価対策の無策への怒りのなか、昨秋の総選挙で自民・公明の与党が過半数割れとなった国会へ、市民が切実な声をあげ行動し、高額療養費改悪を凍結させました。石破首相自らの商品券配布問題で金権まみれの自民党政治は行きづまり、破綻が明らかです。

石破自公政権は復興の進まない能登半島被災地、極端な気候の変動による豪雪や山林火災、農水産物の異変、介護施設や病院のない自治体の増加、公共交通や上下水道などインフラ整備を放置したまま、過去最大の軍事費8.7兆円と暮らし破壊の予算を成立させました。

さらに、トランプ米政権いいなりで、沖縄・南西諸島や西日本をはじめ全国各地の自衛隊基地

の強化や多国間軍事演習など、戦争準備へ突き進んでいます。

今こそ日本国憲法と国連憲章を生かし、大軍拡ストップ、公共を取り戻そう、平和外交をと、さらに声をあげるときです。

小池都政も財界ファースト・都民置き去りの政治を加速、自民・公明・都民ファーストがこれを支えています。都議会自民党の裏金問題も日本共産党、立憲民主党など6会派40人が提出した「政治倫理審査会」の設置を、自公都ファが否決、裏金作りの解明を妨害しています。都議会各党の姿勢が厳しく問われる選挙となるでしょう。北多摩3区（狛江・調布）はまさに小池与党の自公都ファが議席を占めています。これを打ち破る議席の獲得が絶対必要です。

三宅市議が市民に暴言＝「うせろ」発言問題（下）

豊かな狛江をつくる市民の会世話人／「水と緑のまち狛江を大切にする会」メンバー 重国たけし

■何が問われるか——問題意識の整理

先月号の(上)で述べた経過を踏まえて、何が問われているのか、問題意識を整理します。

(1) ハラスメント・活動の自由への圧力に抗する勇氣ある訴え

第一に、勇氣ある市民の訴えが、不当な圧力を放置しないという動きを作り出しています。今回の問題をより深く掘り下げて捉え、狛江市の民主主義の前進へ、市民的な教訓とすることが求められています。

・「うせろ」は人格否定の表現

他者とのやり取りのなかで、「うせろ」などという言葉を使ったことのある人はどれくらいいらっしゃるのでしょうか。「うせろ」は、消え失せろ、消えてなくなれという意味ですから、全否定であり、人格否定の強い言葉です。相手の人格を尊重していれば、そうした言葉が出てくる余地はありません。

もし「通行の妨げ」になる状況があったとしても（Yさんは根拠を上げて明確に否定しています）、「うせろ」ではなく、「道を開けてください」とか「移動をお願いします」など、別の言いかたをするのが通常ではないのでしょうか。

・「市議が市民に」、「男性が女性に」という関係

もう一つ確認しておく必要があるのは、人格を否定する「うせろ」という言葉が、社会的な権力を持つ市議会議員が市民に対して、腕力的に強い立場である男性が女性に対して、発せられたということです。パワーハラスメントと指摘せざるを得ません。

・市民の勇氣と議会の対応

これに対し、今回Yさんは、その場で三宅議員に抗議するとともに、ただちに議会事務局に訴えました。大変勇氣ある行動だったと思います。誰にでもできる行動ではありません。

思いもよらなかった「うせろ」という言葉を浴びせられたことに驚き、怖い思いや悔しい思いを抱きながらも、どうしてよいかわからず、結局「泣き寝入り」してしまう——パワハラがこうしておもてに出ないで隠されてしまっているのではないのでしょうか。しかし今回は違いました。訴えは議長に報告され、議会としての対応がとられることになりました。これはとても大切な対応でした。

・納得の得られる結果には未だ至らず

ただ、その対応が、現状においてYさんや多くの

市民から見て納得の得られる結果につながっているかといえば、そうはなっていないと言わざるを得ません。Yさんは、「謝罪を求める」という立場はあえてとっていません。これは、形ばかりの謝罪があっても何も変わらない。それよりもきちんと反省してもらいたいとの思いからです。真に反省がなされたのであれば、求められずとも謝罪の対応がなされるのではないのでしょうか。

先月号の「上」でも紹介したように、三宅議員には反省の姿勢はなく、逆にYさんが通行を妨げていたかのように議会で一方的（Yさんは会議の構成員でないので反論できない）に発言し、二重にYさんを貶めようとしていました。このため、Yさんが再び議長に申し出ざるをえず、結果、二回目の議会会派代表者会議が開かれるに至ったのです。

・問われる狛江の民主主義

市議会に対し一市民がここまでしなければならなかったことを、重く受け止める必要があると考えます。Yさんの心労がとても大きかったことは想像に難くありません。納得できる結果には到底なっていないけれど、“もう疲れてしまって、これ以上は……”と感じられているかもしれません。

私は、この問題は、当事者間の問題を越えた狛江の民主主義が問われる問題として、多くの市民が知るところになるべき問題と考えています。

・市民活動の自由への圧力

パワハラであると同時に、言論の自由・表現の自由・主権者である市民の活動の自由に圧力をかける行為だった可能性があることについても指摘しておきたいと思います。

Yさんらは、「ほこみち事業と土と緑の共生を」と、駅前の樹木伐採の見直しを求めてプラカードを持ってスタンディングアピールを行っていました。ほこみち事業は、駅前のにぎわい創出をめざして行われているものですが、今回の狛江駅前の事業では、多くの樹木の伐採や植栽の撤去が含まれていたことから、商業利用優先で貴重な緑を減らす計画に見直しを求める声が、若者グループをはじめ、複数の団体と個人からあげられていました。Yさんも駅前の貴重な緑を守ることを求める陳情を行った一人でした。

三宅議員は、狛江駅周辺ほこみち事業を推進してきました。今回「うせろ」と暴言を浴びせたことについて、三宅議員は7月の会派代表者会議で「それに至る経緯に関しては、この場では申し述べることはあえていたしません」としていますが、もし、自

分が推進する政策に異を唱える市民に対して、これを封じ込めようとしたのであれば重大です。

(2)人権問題に潜む悪しき「風土」打破のうねりを狛江から

第二に、この問題を教訓に、より広い視野でハラスメントや人権侵害をなくしていく、そして市民が主人公のまちづくりをすすめる運動を、狛江から発信していくことです。

この間、ジャニーズ問題、フジテレビ問題、国連女性差別撤廃委員会の勧告への政府の対応など、国際水準から見て、日本社会の人権意識の遅れを痛感させる出来事が相次いでいます。背景には、これまでの権力者が押し付けてきた古い「風土」「慣習」があります。

同時に、国際社会においても、トランプ米大統領の相次ぐ言動・政策に見られるように、これまで被抑圧者たちのたたかいのもとで一步一步築き上げられてきた人権を守るための国際的到達を逆行させようとする動きも激しくなっています。

一方で、逆行を許さず、人権侵害の背景にある古い「風土」「慣習」を変えていこうというたたかいも広がっています。権力を背景にしたハラスメント行為を許さないたたかい、差別禁止やジェンダー平等を求めるたたかいは、少し前までは「しかたがない」と押しつぶされ、あきらめさせられてきたことを、明確に「許されない行為」とさせ、是正させるに至っています。

狛江の今回の事案も、三宅議員のYさんに対する暴言問題であることにとどまらず、主権者である市民のまちづくりへの活動の自由を保障する問題、民主主義が問われる問題としてとらえる必要があるのではないのでしょうか。

セクハラで市長が辞任するという経験をした狛江市では、「権力者による人権侵害は絶対に許さない」という姿勢が、よりいっそう求められています。今回の暴言問題をどう受け止め、市政運営の教訓にしていくのか、市長にも見解を求めたい問題です。

★以下は、豊かな狛江をつくる市民の会のホームページに掲載します。

[【三宅議員の「うせろ」発言問題に関する資料】](#)

2024年7月26日 狛江市議会会派代表者会議(議事録)

2024年10月2日 狛江市議会会派代表者会議(議事録)

「あの夏の絵」エコルマ公演 7月3日

折込のチラシでお知らせしていますように、7月3日（木）午後6：30開演で約2時間、休憩を入れずに公演します。被爆した方が目の当たりにした光景を高校生が絵にするという「難題」に立ち向かう想い・葛藤を、迫力のある演技で好演しています。私はビデオを見ただけですが、それでも引き込まれました。日本被団協の田中熙巳（てるみ）さんも「素晴らしい舞台です。…見ないと損です。」とメッセージを寄せられています。

エコルマ公演は演劇としては格安の3000円です。学生・高校生は500円、小・中学生は無料（無料でもチケットはお求めください。来場者数確認のためです）。5月の連休明けには小・中・高校に折込のチラシを配布する予定です。早めにお求めいただければと思います。周りの知人・友人にもお勧めください。

「あの夏の絵」粕江公演を成功させる会

～ 高校生が被爆体験を絵に描く～

基町高校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」

広島平和記念資料館では、広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの協力を得て、2007年度（平成19年度）から、被爆体験証言者と同校生徒が共同し、証言者の記憶に残る被爆時の光景を高校生が絵に描き、当時の状況を伝える「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。

この取組は、被爆者が高齢化するなか、被爆の実相を絵画として後世に残すこと、そして、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的として行っています。

何度も打ち合わせを重ねながら制作される絵は、当時の惨状を克明に描き出すものであり、また、証言者の記憶や思いに高校生が寄り添い、双方の気持ちを共に伝えるものです。

被爆体験の継承の一つの形として、一人でも多くの方に絵をご覧いただければ幸いです。

（公演時に一部レプリカを展示します）

〔制作方法〕

① 証言者の被爆体験を詳細に聴き取る。



② 証言者が描くイメージ図や、わずかに残る写真資料をたよりに、構図を練る。



③ 色を重ねながら、光景を忠実に再現していく。



④ 1年の制作期間中、何度も証言者が絵を確認し、直しながら完成を目指す。



4月の市民運動などの予定

※今月、市民運動団体などが予定している各種会議やイベントなど、日程を掲載するコーナーです。編集部が把握する情報には漏れがあると思いますので、ぜひあなたの情報をお寄せください。
※本紙に折り込んでほしいビラなどがありましたら、280部用意してください。会報製本・仕分け作業日前日が締め切りとなります。折り込み希望の方は、可能な限り、会報の製本・仕分け作業をお手伝いください。

日 時	会場など	内 容	問い合わせ先など
3日(木) 15時～16時	狛江駅前	Silent Standing	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》
9日(水) 17時30分～18時30分	狛江駅前	9の日行動＝駅前署名・宣伝	戦争なんてイヤだ！狛江市民実行委員会
11日(金) 10時30分～	みんなの広場	「豊かな狛江」5月号 編集会議	
17日(木) 16時～ 17時30分	西河原公民館 学習室2	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》合同世話人会	新しい方の参加大歓迎です。
23日(水) 17時30分～18時30分	狛江駅前	《消費税をなくす狛江の会》の署名行動	民主商工会や東京土建狛江支部が中心。第4水曜日。
24日(木) 14時～16時	東京土建狛江支部会館	こまえ社保協事務局・役員会	
28日(月) 14時～16時	みんなの広場	豊かな会拡大世話人会	世話人以外の方の参加歓迎です。
29日(火) 9時30分～	みんなの広場	豊かな会会報『豊かな狛江』5月号の製本・仕分け作業	折り込みのある団体はご参加ください。



未来は変えられる！戦争ではなく平和なくらし！ **2025 憲法大集会**

日時：5月3日(土・休) 11時～

※メインステージ 13時開始

場所：東京・有明防災公園（東京臨海広域防災公園・東京都江東区有明 3-8-35）

※りんかい線「国際展示場駅」より徒歩 4分／ゆりかもめ「有明駅」より徒歩 2分

狛江駅 11時集合で、みんなでいきましょう。

豊かな狛江をつくる市民の会 2025 年総会

5 月 17 日（土）14 時から土建会館会議室

冒頭に市政学習会（仮称）を予定しています。どなたでも参加できますので下記議案をご覧ください、ご意見・ご提案をお寄せください。

総会議案（案）

【前回総会（2024 年 7 月）からの経過】

2024 年総会は、住民投票条例求める運動に全力をあげ、7 月 7 日投票の都知事選挙にも力を注ぐため 7 月 27 日に開催しました。

2024 年 10 月、石破内閣発足直後に解散・総選挙となりましたが、22 区（調布・狛江・三鷹）では立憲野党の共闘・候補者一本化ができませんでした。

多摩地域の先陣を切り、2024 年 3 学期から小中学校給食費無償化を実現し、多摩全域に影響を与えました。また、高校生までの医療費無料化も実現しました。周辺自治体が先行していた PFAS 対策は、市独自の井戸水調査実施が決まりました。

対市予算編成要望を社保協がまとめ、9 月 9 日市に提出しましたが、3 月 30 日現在回答はありません。

2021 年からコロナを理由に会談の場を設けず、2023 年以降は「どの団体とも会わない」とし、市民参加条例にも「市民センター等改修方針」、狛江駅北口樹木伐採に象徴されるように市民参加を認めない態度です。生活困窮者への市独自支援に消極的です。

毎月拡大世話人会を開催し、会報「豊かな狛江」を毎月発行しています。

毎月 3 日のサイレントスタンディング、「九の日」行動、改憲許さない国会大行動などに参加しました。

核兵器廃絶を願い、被爆体験を継承するため青年劇場「あの夏の絵」狛江公演（7 月 3 日）を成功させる会に参加しています。

【2025 年度活動方針（案）】

I、市民本位の狛江市政の実現に向けて広範な団体と連帯します

◇「市民参加と市民協働の推進に関する基本条例」に違反する市政運営を許さない取り組みを推進します。

◇国保税軽減、補聴器購入補助充実など 2022 年狛江市長選で掲げた公約の実現に向け取り組みます。

◇《豊かな会》に結集している個人・団体の皆さんが、自らが担っている要求運動やとりくみを精一杯、活き活きと展開し、市民への影響力、市民からの信頼をいっそう広げることが第一だと考えます。

◇《豊かな会》は、広範な市民運動・市民活動との連携を追求し、市民福祉切捨て市政との対抗・反撃、市民派市政の復活に的を絞った市民運動を全力で進めていきます。

◇《こまえ社会保障推進協議会》の運動に積極的に参加します。

II、9 条改憲阻止、自公政権打倒のたたかい、都民のいのちと健康を守るため、防災や医療を充実する都政に転換する

◇《戦争なんてイヤだ！ 狛江市民実行委員会》に結集し、9 条改憲発議に反対する運動にとりくみます。

◇《戦争なんてイヤだ！ 狛江市民実行委員会》が参加する《市民連合“ちょこみた”@東京 22 区》を通して、次の総選挙において自公政権打倒のため、東京 22 区における“市民と野党の統一候補”を追求します。

◇都知事選挙、都議会議員選挙で都政を転換する候補者を支援（推薦）します。

III、2026 年 6 月の市長選挙で市政転換のため市民派市長誕生をめざし、政策立案と候補者選定委員会を立ち上げます。



3.11 福島を忘れない



3月11日(火)午後2～3時、狛江駅北口前で「福島原発事故を忘れない！」「処理汚染水を海洋放出するな！」の横断幕を掲げて、宣伝活動をしました。

石川は政府の原発活用路線への転換を批判し、「この転換は、福島の実情、惨状を無視して議論され、決められた。福島の実情・惨状を無視して原発はじめエネルギーの問題を議論することは出来ないはず、あってはならない。」と訴えました。

福島の実態として帰還状況、人口回復、産業の回復、今も続く帰還困難区域、「避難者」の苦しみは4割にPTSDの疑いがあるとの調査報告、浪江町津島地区に住む三瓶春江さんの自宅解体の悲痛な叫び、「思い出の家 涙の『看取り』」(東京新聞)を紹介し、「原発は幸せではなく、不幸をもたらしました。」と怒りをこめてスピーチしました。

須貝は16万人以上が避難を余儀なくされ、今も原子力緊急事態宣言が続いているが、福島第一原発の事故では10以上の奇跡があったものの最小限に留められたものであること、その内の4号炉で起きた「奇跡」を具体的に説明したいと始めました。

第1の奇跡は重要免震棟が完成していたこと、第2に4号機の原子炉ウエルの水がたまたま抜かれていなかったこと、第3に4号機の原子炉ウエルの水と使用済み核燃料プールの間仕切り壁がずれたこと、第4に4号機の屋根が3号機の水素爆発でちょうど良い具合に壊れたこと、そして第5に4号機に水を入れるための大キリンが手配(中国企業の寄付)できたこととスピーチしました。そして、日本政府に要求するとして、①原発の稼働と再稼働の中止 ②原発のリプレースを含む新增設の中止 ③気候危機に原発ではなく、再生可能エネルギーの活用 ④トリチウムを含む汚染水の海洋放出をしないことを訴えました。

(<http://hakarukai.clean.to/> 「2025年3月11日 狛江駅頭宣伝」参照)

2時46分には追悼の黙祷をさせていただきました。



展示物はA3で15枚ほど、新聞記事なども含めて壁に立てかけました。

当日の駅前には人通りもそれほど多くはなく、のんびりした雰囲気、立ち止まって聞く人、展示物をながめる方、話しかけてくる方など和やかでした。浪江出身の方で請戸の写真をしげしげと眺めている方もいて、しばしおしゃべりを楽しみました。

原発と気候危機を考える会 西尾真人

ご案内

東京電力福島第一原発事故から14年。飯舘村に



帰村した人、帰村したくても放射線量が高い地域で戻れない人、ほかの土地で牧畜を続ける決心をした人.....決して平坦とは言えない3人の母ちゃんの3つのストーリー、それが「飯舘村べこやの母ちゃんーそれぞれの選択」です。

原発事故がいった

ん起きると人々の生活をどれほど狂わせてしまうものなのか、それを是非知ってほしいのです。(監督 古居みずえさんより)

映画「飯舘村べこやの母ちゃん_それぞれの選択」

DVD(定価3,700円)

単行本「飯舘村の母ちゃんたち」(定価2,420円)

DVD・単行本のお求めは

メール：iitateka311@bb-unext01.jp

映画「飯舘村の母ちゃん」制作支援の会

<https://iitatekachan.info/>

※送料300円

国民救援会が狛江支部結成

3月29日（土）泉の森会館

国民救援会は冤罪や不当解雇などでたたかっている人たちを支援するなど、100年近く人権を守る活動が続けている団体で、1992年に調布狛江支部が誕生しましたが、「狛江雇止めパワハラ裁判」（岩崎事件）を終え、これまでの運動を生かすため狛江支部として独立する運びとなりました。

会長に梅木健司さん、事務局長に岩崎安男さんら役員を選出し、当面は狛江市議会に再審法改正（刑事訴訟法の一部改正）を求める意見書が採択されるこ

とをめざします。同時に国会にむけての請願署名もとります。

結成総会に先立ち、国民救援会中央常任委員・生江尚司さんによる「袴田事件から救援活動の役割」をきき、再審法改正の必要性を学びました。

（東野川・前土肥保）



狛江の自然



オオシマザクラ

御台橋近くの野川遊歩道で3月26日撮影。花と一緒に葉の出るヤマザクラは、ソメイヨシノより遅く4月中旬頃ですが、この桜はソメイヨシノより早く咲いていました。調べたらオオシマザクラでした。伊豆諸島に分布する野生種で、房総半島や伊豆半島など比較的温暖な地域にも自生しています。なお、ソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガンを交配して誕生したものです。花と葉は香りが強いことから、桜餅を包む葉といえ

ばオオシマザクラのものが一般的だそうです。

（和泉本町 西尾真人）